

愛知県議会議員

— 自民党1期 —

神谷 和利



今年のスギ花粉の飛散量は過去10年で最大、東海地方では前シーズンの280%と発表されています。国民の3人に1人が患っている花粉症は増加、若年化しており、労働生産性低下による経済

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会県民環境委員会副委員長。同行財政改革・地方創生調査特別委員会委員。自民党愛知県第11選挙区副支部長。元豊田市議会議員。愛知県森林協会副会長。豊田市少林寺拳法協会会長。ボーイスカウト豊田地区副協議会長。

スギ人工林を厄介者にするな

に飛ばすスギ人工林を伐採することが、対策の大きな柱の一つです。そして伐採後はけいそのまま放置せず、国や県が品種開発を進めている少花粉・無花粉の苗木を植えて森林に復元することで、水害や山地崩壊など防がなければなりません。またスギはCO2吸収率が高く、温暖化対策として優秀な樹木です。2050年カーボンニュートラルに向けた移行期では、クレジットでCO2排出量を調整する動きが加速しております。「Jクレジット」と呼ばれるこの制度は、適切な森林管理によるCO2吸収量をクレジットとして国が認証するものです。企業や地方自治体が森林所有者の創出したクレジットを購入することで、CO2排出削減目標を達成し、温暖化対策に積極的な企業、団体としてPRできます。将来、人工林の取り合いが始まるかもしれません。スギも伐採期を迎えるとCO2吸収量が減少し、大量の花粉を作るだけになります。花粉症対策として林業再生予算を毎年5兆円増額しても将来的には経済効果はプラスです。計画的に人工林伐採を進めて植林し、伐った木が有効に利用されるよう木材の需要を拡大することが重要です。

損失は1シーズン5兆円と報告されています。新しい国民病と言われるスギ花粉症は、戦後に植樹されたスギが樹齢30年程度に達した1980年代から社会問題化。「目玉を取り出して洗いたい」とま

でいわれるアレルギー症状もあります。最近では対策グッズや新薬の「Jクレジット」でCO2排出量調整

開発で緩和されてきました。あくまでも対処療法。花粉を大量

シットでCO2排出量